

書塾の仲間たち

第268回

あつた あやくも

熱田彩雲習字教室（岐阜県各務原市）



●書塾からひとこと●

私たちの教室では、未就学児から大人まで、幅広い年齢層の生徒さんたち四十五名が毛筆と硬筆の練習に取り組んでいます。

毛筆では、基礎練習としてひらがな五十音やカタカナを書き、多くの文字を学んで上達を目指しています。月刊「書写書道」の課題や学校の書写の課題に取り組みむかにも、夏休みには、学校から出される課題や地元の展示会に出品する作品作りにも励んでいます。また、年末には、お正月に向けて書初めの練習も行っています。

硬筆では、お手本をじっくり見て真似ることを繰り返し指導しています。少しずつではありますが、ノートの字が上手になっているのが目頃の練習の成果だと思います。

生徒同士はとても仲が良く、学校が終わってホッとした顔で教室に来て、友達とおしゃべりをしながら、おのの課題に取り組みます。少しおしゃべりがにぎやかすぎる時もありますが、上手に書くコツを身に付けた生徒さんが、上手に書けない生徒さんへアドバイスすることもあったり、一緒に楽しく練習しています。練習が終わり、保護者のお迎えを待つ生徒さんが「楽しかった」と笑顔を見せてくれると、大変嬉しく思います。

最近は、中学生や高校生になっても、部活動と両立しながら習字を続ける生徒さんも増えて、勉強の息抜きや特技の一つとして、教室に通っています。学校のテストの時期などは時々お休みすることありますが、短期間で集中して素晴らしい作品を書き上げています。

習字はいったん中断しても、いつでも再開できます。これからも「習字が好き」な生徒さんを増やしていきたいと思っています。

熱田彩雲習字教室 向井 京子

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

気象

小六 花谷駿太郎



書道と野球の大事なこと

静岡県裾野市立南小学校六年 花谷 駿太郎
はなやに しゅんたろう

ぼくが書道を始めたのは小学一年生のときです。いとこの字がとてもきれいで、お母さんにすめられました。最初に通った書道教室では正座で書いていて、慣れない雰囲気の中、いつも「早く書いて終わらせたい」と思っていました。

二年生になり、今の教室を見学したときに、みんながいすに座って書いてる様子や、水筆の体験をして、「ここがいいな」と思ってたし始めました。レッスン中はみんな集中して書きますが、始まる前や終わった後には、好きな野球の話がします。夏休みや冬休みには、お楽しみ会やクリスマス会もあります。それがとても楽しくて、他の学校の友達とも仲良くなれます。始めたころは早く書いて終わることは考えていませんでした。それから、先生に指導を受けて、払いやハネ、文字の大きさに気をつけながら書くうちに、自分の字が好きになっていきました。

三年生のときには、月刊「書写書道」に毛筆の作品が掲載されて、とてもうれしかったです。毎月どのくらい上達したのか、名簿で自分の名前を探すのも楽しみです。

六年生になって、書写の授業で好きな文字を書いていいと言われて、毛筆で「大谷翔平」と書きました。大好きな野球選手の名前を自分の手で表現できて、ぼくはとても満足しました。

書道も野球も、道具が大事で、練習が一番大事なところが似ています。書道教室では、先生がやさしく教えてくれます。野球は、かんとくやコーチのきびしい指導を受けながら、毎日自主練もします。家で筆を使うことはないけれど、授業のノートや宿題をいねいに書くことを毎日心がけています。授業参観で、黒板にチョークで文字を書いたとき、お母さんに「とってもきれいに書いていたね」と言ってもらえました。

ぼくは書道も野球も大好きです。これからどちらも続けて、将来「どちらもやっていて良かった」と思えるようにがんばっていききたいです。

私と書写書道 第268回

泉則 出醴

小春 吟



書道との出会いは私の人生を豊かにしてくれています

埼玉県立川越女子高等学校三年 片柳 小春
かたやなぎ こはる

私が初めて書道に触れたのは五歳のときでした。ひらがなを覚えるために、幼稚園のかきかた教室に通い始めたのがきっかけです。

学年が上がるにつれて、コンクールに出品する機会が増え、「前回より良い賞を目指したい」と強く思うようになりました。毎日親と一緒に練習して、どのように工夫したら上手に書けるかなど、さまざまな研究をしたことが強く印象に残っています。その結果、良い賞をいただいて、表彰式に参加できたときは、努力が報われた達成感と喜びが溢れて、本当に嬉しかったです。日々練習に付き合ってくれた親と、かきかた教室の先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。練習を積み重ねた経験が自信となり、今の自分を形作っていると思います。

現在、私は高校でも書道を学んでいます。中国の書の歴史や書体の変遷、石碑などについて学ぶことはとても興味深く、書道をこれまでよりも多様な視点から捉えられるようになりました。また、私は書道部にも所属しており、日々、古典の臨書に取り組みんだり、書道パフォーマンスの練習に励んだりしています。他の部員たちはとても上手で、良い刺激をもらっています。皆で同じ目標に向けて日々努力することや、一緒に一つの作品を完成させることは本当に素晴らしい大切な経験だと思います。

書道と出会って、努力を重ねたり、仲間と切磋琢磨したりする中で、私は自分の人生が豊かになるのだからと感じます。幼い頃に、「かきかた教室に通う」「書道続ける」という選択をしなかったら、私の人生は全く違ったものになっていたと思います。今の自分を形作ってくれた書道に出会えたことを、心から幸せに思っています。